

特集

# 都市再開発で増産廃事業の隘路

# 日高町に大規模最終処分場

## ～地元の反対期成会が署名



▲産業廃棄物最終処分場の計画地近くの道路（日高町広富地区）

が日高振興局に対し、処分場計画を認可しないよう求める要請書と、建設に反対する地域住民ら1864筆の署名簿を手渡した。

最終処分場計画は、苫小牧市に本社がある株式会社苫小牧清掃社が町内広富地区の砂利採石場近くに大規模な施設を計画しているもので、同社は4月までに日高振興局保健環境部に対して仮申請を行い、町議会や広富地区の住民に対して、施設の概要説明などを始めた。

**18年後には50万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>受け入れ**

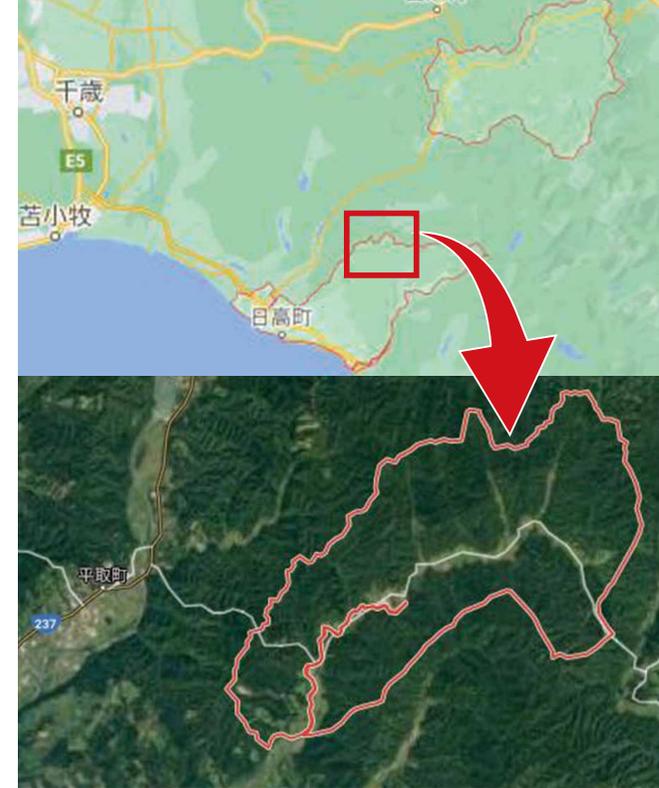
説明によると、金属くずやコンクリートなど有害物が付着していない「安定5品目」を埋め立て処分する安定型最終処分場と、廃油や木くず、動植物性残渣や、動物の死体、汚泥などを含む廃棄物を埋め立て処分する管理型最終処分場を建設し、合わせて容量25・3万立方<sup>3</sup>mの廃棄物を約10

# 加する

# 計画

## 簿を提出～

ジャーナリスト **黒田 伸**



▲産廃予定地の周辺図 (@google)

日高管内の太平洋岸に面した日高町（旧門別町）で苫小牧の産業廃棄物業者による大規模な産業廃棄物最終処分場計画が明らかになり、地元住民らの反対運動が広がりをみせている。近隣の安平町早来北進地区でも産廃の最終処分場の建設計画をめぐる反対運動が起きるなど、産廃施設をめぐる業者と地元住民の摩擦は「今後、道内各地で起こる可能性がある」と指摘する声もある。札幌中心部で進む再開発に伴う産業廃棄物の急増が背景にあるとの見方もあり、雄大な自然が売り物の道内各地にゴミの山が次々と出現する可能性もある。

## 苫小牧の企業が計画

「最終処分場」という言葉が昨年来、何度もテレビや新聞で報道されるなか、「また原発のゴミか」と思う読者がいるかもしれない。泊原発に近い神恵内村、寿都町で原発の稼働後に出る高レベル放射性廃棄物、いわゆる「原発のゴミ」の最終

処分場立地に道を開く国の文献調査に応募した2つの自治体名は連日、道民の耳に届いている。しかし、放射能を含まない産業廃棄物の最終処分場の建設地もまた、道内で探す必要性が浮上し、各地で建設に反対する動きが表面



続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)